

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	キッズすてっぷさせぼ(放課後等デイサービス)		公表日		2025年 1月 10日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・利用定員に合った広さであるように感じるが、年齢が上がっていくにつれて、動きのある遊びに物足りなさを感じてくるかもしれない。大きく体を動かす活動においては、公園や体育館など、場所を検討するようにしている。	・活動内容を工夫しながら、室内でのプログラムにおいて、子ども達の満足感を感じてもらうように進める事は必要。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		・現状を精一杯、スタッフ間で協力をしながら、進めていくようにしている。	・適切なスタッフの配置となっているが、5領域を含む支援の提供、こどもの満足感ある活動の提供、保護者様が安心してあずける事ができる場所に繋げていくには、ゆとりあるスタッフの配置が好ましい。人員確保は、福祉事業所として、課題である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	4	・階段がある為、昇降が必要な建物となっているが、手すりを活用したり、滑り止めをするなどの対応はしている。今後も注意を払いながら、行動していくように心がけていく。	滑り止めの強化の検討。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・利用後は、掃除、消毒作業など行うようにしている。換気においても、心がけて行っている。	・すべての玩具消毒は、時間が必要とする為、どのように対応していくかは、課題である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	3	・どの部屋も使用できるというわけではない為、こどもの様子、気持ちを聞きながら、使用できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		・昨年度同様、支援内容、業務内容においては、PDCAサイクルを念頭におき、設定を見直し、振り返りを行っている。	・非常勤スタッフへの申し送りは、どのようにしていくか、課題である。 ・定期的に会議で検討していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・年に一度、保護者様にも協力を頂き、アンケートを実施している。意向を受け止めていきながら、改善できる工夫をしていきたい。	・結果をスタッフ全員で周知していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・ミーティングを行いながら、意見交換を行ったり、案を出し合いながら、進めている。	・職員全員の出勤日を設けて、毎月の議題をもとに話し合えるようにしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		・会社として行っていないが、必要に応じて検討課題である。 ・福祉、保険、保育など、関係機関から意見をもらえる場があると良い。

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・福祉制度や子どもの発達に関する研修に参加をしている。ズーム研修は、より多いスタッフの参加もできていたので、今後も情報取収集をしていけら良い。	・今後においても、学べる機会に積極的に参加をしていながら、スタッフの資質の向上を目指していきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・活動内容においては、保護者様や子どもにも分かりやように、毎月のグループ活動表の案内をしている。	・義務化となっている、公表内容においては、現在見直しの段階である。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・アセスメントの用紙は法人で統一したもとなった為、やりやすさはできた。	・保護者様のニーズと、事業所の課題をすり合わせていながら、個別支援計画を作成していくようにする。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・個別支援会議では、できるだけ多くのスタッフに参加してもらうようにしている。また、参加できなかったスタッフに申し送りをしていながら、全員周知をできるようにしている。	・非常勤スタッフへの申し送りは、どのようにしていくか、課題である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・個別支援会議では、周知や把握をしていながら、共有している。 ・毎日行なうミーティングで打ち合わせを行っている。	・非常勤スタッフにおいては、細やかな申し送りなど課題である。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	5	・アセスメントや日々の記録をもとに、どのような状況か確認するようにしている。 ・各種、検査結果を参考にしながら、発達の様子を考慮しつつ、実態把握を行うようにしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	2	・ガイドラインに沿った計画作成に努めている。 ・該当しない子どももおられる為、作成の際に必要なに応じて記入を検討していきたい。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・2人1組になり、活動プログラムを作成している。その土台を元に意見を取り入れながら、活動を進めるようにしている。	・専門的に必要とする課題においては、法人内の専門職にアドバイスをもらいながら、進めていくと、プログラムの内容の幅が広がると感じる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・今年度より、「健康、生活」「運動、感覚」「認知、行動」「言語、コミュニケーション」「人間関係、社会性」5領域を意識しながら、固定化しないように工夫している。	・今後も、意識した活動内容の工夫は必要。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせながら放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		・個別活動、集団活動を組み合わせながら、作成している。今年度はその支援に加え、専門的支援実施を取り入れるようにしている。	・専門的支援を実施するにあたり、スタッフの人材育成や確保が課題である。 ・活動内容の情報収集は必要。子どもの満足感のある活動を提供できるようにしていきたい。

20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		・その日に行われる活動の確認や、役割や、こどもの見守りなど確認しながら進めている。	・話を聞く、実行する、ルールに沿って友達と遊びが楽しめる経験に繋がっていくには、手あついスタッフのフォローやサポートは必要。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		・大まかな内容においては、その日に全員で周知している。翌日に話し合いの場を設けながら、振り返り、気づきの点を共有するようにしている。	・スタッフ全員にどのように周知していくか課題。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		・記録においては、見直しも行いながら、状況、様子、働きかけ、対応なども記入するようにしている。	・良い支援、良い記録は今後の課題。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・必要な時期にモニタリングを行い、方向性を見直し、個別支援計画の作成に繋げている。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6	1	・ガイドラインに沿った支援内容に努めている。	・自然と活動にとりりれている内容であるが、改めて意識しながら取り組みを進めていく事は必要。 ・スタッフ間で周知していく。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		・体験を通して選択する力が育つ工夫はしている。	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		・主に、児童発達支援管理責任者が出席しているが、経験あるスタッフも同席しながら、支援の内容を一緒に考えていく事も行っている。	・児童発達支援管理責任者の育成も含め、経験あるスタッフの参加も進めていく。
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	5	・地域の保健、医療との連携がとれていないの現状。まずは、学校との連携を行うようにする。	・地域の保健、医療との連携方法をどのようにしていくか課題。
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		・情報共有は、学校訪問を通して行うようにしている。 ・下校時刻などは毎月FAX連絡をくれる学校もあり大変助かっている。	・継続した連携方法は課題である。
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		・園、学校の訪問を通して、今後繋げる支援の第一歩を進めていけるようにしている。	・連携をとっていくには、園や学校の先生方の協力も必要となってくるため、訪問の目的などを伝えていきながら、情報共有していきけると良い。
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		7	・学校訪問を通して、お子様の様子の共通理解を図っている。	・今年度、対象のこどもがいる為、福祉サービスの事業所とどのように連携をとっていくかは課題である。
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		7		・現在は連携がとれていない為、今後の課題。

連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7		・今年度は、児童館の夏祭りやマルシェに参加していきながら、地域交流の機会を取り入れていた。交流とまではいかないが、地域の場に慣れる、過ごすといった経験に繋がり、良い機会だったように思う。無理をしないように、楽しめる事を基本として継続していけると良い。	・他事業所との交流も取り入れながら、出会いや、交流が楽しめる機会に工夫しながら、社会性の育みにも心がけていきたい。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		7	・参加できていない。	・どのような話し合いがなされているか、情報収集をする。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・送迎の場面だけでは難しい面もあり、モニタリングの時期や必要に応じて連絡をとり、様子を共有できる時間を作っている。	・今年度より新たな加算制度もある為、保護者様へ周知しながら、取り入れて行けると良い。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5	・今年度は研修を受け、学べる機会を作っていた。今後、保護者様へ役立つような内容をお伝えできると良い。	・引き続き、研修を通して、学べる機会は必要。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・利用前に説明している。	利用開始前には説明を行っているが、何年か通って下さっている方へ新たに説明する事も必要に感じる為、どのように機会を作っていくか課題。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		個別支援計画の案が必須となっており、意向を聞きながら、案をもとに希望などを再確認している。	・書類面が多くなっている為、保護者様に説明する時間の確保をどのようにしていくか課題である。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		・項目など多くなっている為、ひとつずつ説明している。	・説明する場所、時間をどのように確保していくか、保護者様のニーズを聞きながら検討は必要。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	2	・送迎の際にお話をする事が殆どで、改めて時間を作って面談までには至っていない。	・説明する場所、時間をどのように確保していくか、保護者様のニーズを聞きながら検討は必要。 ・今年度より新設された加算を活用させて頂き、保護者様が気兼ねなく話せる場を提供していけると良い。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		7	・現在は行えていない。	・ニーズは様々であり、保護者様の意向を聞きながら、進めていきたい。 ・まずは、事業所でどんな交流ができるか、必要かどうか等検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・対応するように心がけている。	・苦情だけではなく、意見、要望などの記載も見直しを検討していきたい。
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		・おたよりなどの紙面方法から、ブログでのお知らせ、ラインを活用した案内に変更している。 ・活動内容も、一カ月のスケジュールを保護者様に案内をしている。	・新規の利用様には、全て案内ができない場合もある為、適切なタイミングでしっかりと周知できるようにしていきたい。	

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・施錠を行い、確認を行っている。	・セコムなどの導入するとより安心したものになるかと感じるが、現状は難しい。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		・聴覚に障害のある子どもにおいては、周囲の子どもや大人も意識できるような活動を取りれている。(手話や指文字)	・分かりやすい視覚支援は、どのような場面で必要か、スタッフ間で再度共通認識は必要。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	・事業所の行事に招待する事はなかったが、児童館の先生を事業所に招待させて頂き、事業所の子どもと一緒に活動する機会を作った。	・地域の方からの理解、協力は必要な時もあると感じる為、どのような機会を作っていくか課題。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	4	・作成は行っているが、周知までできていない。	・保護者様にどのように周知していくか課題。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・今年度から義務化されており、必要な訓練を行っている。	・どんな訓練方法があるか、備蓄においてはどこまで必要か、確認は必要。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3	3	・服薬に関しては、スタッフ間で声出し確認をしている。	・服薬に関しては、個人の用紙を作成しているが、予防接種、てんかん発作の状況を確認する用紙は、今後必要に感じる。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3	・食物アレルギーの子どもを利用の際には、スタッフ間で周知している。 ・食べ物に関しては、必ず保護者様に確認をしている。 ・アレルギー注意のプレートを出しながら、スタッフ間で共有している。	・保護者さまより状況をお聞きしている事や、アセスメントを通してスタッフ間で周知しているが、指示書は今後頂ける方向で、保護者様にもご協力を頂く事にする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		・安全計画は作成している。	・内容をスタッフ全員で周知していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	5	・安全計画マニュアルは作成されているが、しっかりと周知までは行えていない。	・内容をしっかり把握して、今年度中には、保護者様へ周知できるようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・記録を残して、スタッフ間で周知している。	・対応策や振り返りなどは、会議をし再度注意していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・情報収集をしながら、研修に参加している。	・研修内容を、事業所へ周知、研修をしていくようにする。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		・現在は対象の方はおられません、必要に応じて説明をしていきたい。	